

高齢者・障がい者入所施設に係る感染症対策専門家派遣指導事業 指導結果

指導年月日	令和3年11月2日（火）		
高齢・障がい	高齢者施設		
施設種別	認知症対応型共同生活介護		
対象施設名	グループホーム翔あかなべ		
運営法人名	株式会社のぞみ		
所在地	〒500-8269 岐阜県岐阜市茜部中島 1-38-2		
定員	18人	職員数	約20人
指導者	岐阜大学医学部附属病院 岐阜赤十字病院 岐阜大学医学部附属病院	馬場尚志 医師 石森正敏 医師 深尾亜由美 看護師	

1 事前質問、会場質問への回答

問1 感染拡大を防ぐための対策について

認知症のある利用者が大半であり、利用者は、マスクを着用することが困難ですし、グループホームのため、同一階の利用者同士では接触の機会が多くあります。そのため、万が一、施設内で感染者が発生した場合の感染拡大が心配です。感染拡大を防ぐためにはどうすればいいですか。

【回答】

感染発生前の対応としては、食事の時間など、マスクなしの状態を利用者や職員が一斉に接する機会をできるだけ減らすなど、万が一の場合に備えて対応することが大切です。

仮に、感染者が発生した場合は、初期対応が最も大切です。初期のタイミングで、的確に、グリーンゾーンとレッドゾーンを分けることができれば、その後、感染が広がる可能性は低くなります。例えば、廊下はグリーンゾーン、利用者の居室はレッドゾーンとなります。居室の前に、ガウンや手袋を置いておき、職員が居室に入る前に着用し、使用後は、居室内のごみ箱に脱ぎ捨てて、廊下に出ることとなります。

なお、居室内にポータブルトイレを置くことが困難で、利用者が居室外のトイレを使用する場合には、介助する職員は、ガウン等を着用した状態で廊下に出ていくこととなります。

問2 職員によるウイルス持ち込みについて

高齢者施設の新型コロナウイルス感染症の発生要因としては、職員によるウイルス持ち込みが多いと聞きましたが、どのような対策が必要ですか。

【回答】

グループホームの場合、同時に勤務する職員の数が少ないため、休みづらい雰囲気があるかもしれませんが、少しでも体調がすぐれない職員がいる場合には、気軽に休むことができ

る環境づくりが必要です。

また、例えば、入浴介助時など、暑いからといって、職員がマスクを外した状態で利用者と接する機会がないよう注意・徹底することが必要です。

問3 感染対策のレベルを上げるタイミングについて

どのタイミングで感染対策のレベルを上げる（フェイルシールドの着用など）必要がありますか。

【回答】

マスクを利用していない利用者との接する機会の多い高齢者施設の場合、どんな状況であってもマスクの着用と合わせて、フェイスシールドを着用した方が望ましいと思います。

感染が収まっている時期に、フェイスシールドを着用しない場合であっても、感染が流行しはじめた時期には、できるだけ早めに、フェイスシールドの着用など、感染対策のレベルを上げていく必要があります。

問4 居室内の換気について

利用者の居室に換気扇が設置されていますが、常時、稼働はさせていません。利用者の居室内の換気はどのようにすれば良いですか。

【回答】

平時と平時以外に分けて対応していく必要があります。例えば、咳をしている利用者がある場合には、当該利用者の居室の換気扇は付けっぱなしにし、共有部分の換気も増やしていく必要があると思います。

問5 新型コロナウイルス感染症の終息について

職員に対して、県をまたぐ旅行を極力控えてもらうなど、やむなく負担を強いています。新型コロナウイルス感染症はいつ頃終息するのですか。

【回答】

正確な予想はできませんが、長い目で見て、人々が、これは普通の病気だとして納得できるタイミングがある意味で終息だと思います。しかし、そのような状態になったとしても、インフルエンザのように、怖い病気として警戒していく必要はあると思います。

2 現場指導び講評

- ・ 手指消毒液は、利用者の居室の入口ごとに配置するなど、できるだけたくさん配置すること。利用者による誤飲を防ぐため、職員の腰に配備する方法も検討するとよい。
- ・ 同一階の利用者が一同に食事をとっているため、利用者ごとに食事の時間をずらしたり、間隔を空けたりするなど、万が一感染者が発生した場合でも、感染が広がらないための工夫を講じることが望ましい。
- ・ 職員一人一人が、防護服の正しい脱着方法を習得することが大切であるため、脱着手順が記載された紙を壁に貼っておくことが望ましい。
- ・ ウレタンマスクを使用している職員いたが、感染が流行し始めたら、不織布マスクの着用の徹底が望ましい。